

どぶ川跳び

脚本 APCHE

陽太が引越し先で遊び仲間として認められる話

浜中陽太(8) : 引っ越して来た少年
母親(33) : 陽太の母
里見吉雄(9) : 近所の子供のリーダー格
子供A(8) : 吉雄の遊び仲間
子供B(7) : 吉雄の遊び仲間

○住宅街の路地

道路にロウ石で絵を描いて遊んでいる
里見吉雄(9)と子供A(8)子供B
(7)。

そこに浜中陽太(8)を連れて母親
(33)が吉雄達の方へやって来る。

母親 「僕達ちよつといい？」

吉雄 「何？」

母親 「おばさん達ね、ここに引越して来た
の。うちの子供と遊んでくれる？」

吉雄 「別にいいよ」

母親 「ありがとう！ 陽太、お礼をいいなさ

い」

陽太 「……ありがとう！」

母親 「それじゃ、陽太、仲良くするのよ！」

立ち去る母親。吉雄を見つめる陽
太。

吉雄 「これ、一個やるよ」

吉雄 からロウ石を受け取る陽太。

陽太 「ありがとう！」

地面にしゃがみ込み道路に絵を書き
始める陽太。

○一時間後、住宅街の路地

ロウ石で道路に絵を描いて遊んでいる

陽太、吉雄、子供A、子供B。

道路に絵を書くのを止めた子供A。

子供A 「そろそろ公園行かね？」

子供B 「いいね！」

吉雄 「行くか」

陽太 「どこ？」

吉雄 「ついて来い」

○どぶ川

幅一メートルくらいのどぶ川が流れて
いる。

それを次々と跳び越えて行く吉雄と
子供A、子供B。
どぶ川の縁まで来て立ちすくむ陽
太。

陽太「……」

子供A「どうしたんだよ？ 早く来なよ！」
うつむく陽太。

子供B「もしかして跳ぶの恐いの？」

顔を上げて悲しそうな顔をする陽
太。

子供A「だっせー！」

どぶ川を見つめる陽太。

吉雄「飛ばないなら仲間じゃないな」

吉雄を見つめる陽太。

吉雄「行こーぜ」

立ち去る吉雄達

立ちすくんで動けないでいる陽太。

○翌日、住宅街の路地

ロウ石で道路に絵を描いて遊んでいる
吉雄と子供A、子供B。
そこにやってくる長靴を履いている陽
太。

陽太「やあ、あそぼう！」

顔を上げる吉雄達

子供A「何でお前、長靴履いてんの？」
にやける陽太。

陽太「それは見てのお楽しみだよ」

子供A「ふーん？」

吉雄「お前は跳べなかったから、仲間じゃな
い、あっちで描いてろ」

陽太「解った！」

離れる陽太の後ろ姿を見る吉雄達
楽しそうにしゃがんで絵を描く陽太。

○一時間後、住宅街の路地

ロウ石で道路に絵を描いて遊んでいる
吉雄と子供A、子供B。少し離れた

ところで道路に絵を描いている陽太。
絵を描くのを止める子供A。

子供A「そろそろ公園じゃね？」

子供B「だな！」

吉雄「行くか！」

陽太「僕も行く！」

陽太を見る吉雄達。

子供A「お前、跳べるの？」

うなずく陽太。

陽太「うん！」

子供B「じゃあ来てよ！」

陽太「うん！」

○どぶ川

どぶ川を次々跳び越えていく、吉雄
と子供A、子供B。

陽太を見る吉雄達。

どぶに降りて向こう側に登って渡つ
た陽太。

笑顔を浮かべる陽太。

子供A「ズルすんなよ！」

陽太「え？」

子供B「ちゃんと跳べよ！」

うつむく陽太。

吉雄「行こうぜ」

陽太を置いて立ち去ろうとする吉雄
達。

ついて行こうとする陽太。

子供A「来るなよ！」

立ちすくむ陽太。

吉雄「行こうぜ」

立ち去る吉雄達。

立ちすくむ陽太。

○二時間後、どぶ川、夕方

靴に履き替え、ほうきを持ってどぶ川
にきた陽太。ほうきの柄でどぶ川の幅
を測る。

○住宅街の路地、夕方

ほうきの柄を元にどぶ川の幅と同じ幅の二本の線を道路に引く陽太。引いた二本の線を何度も交互に跳び越えて練習する陽太。

○翌日、住宅街の路地

ロウ石で道路に絵を描いて遊んでいる吉雄と子供A、子供B。そこにやってくる陽太。

陽太 「やあ……」

顔を上げない吉雄達。吉雄達を少し見つめたあと、少し離れた場所でしやがみ込みロウ石で絵を描き始める陽太。

○一時間後、住宅街の路地

ロウ石で道路に絵を描いて遊んでいる吉雄と子供A、子供B。少し離れたところで道路に絵を描いている陽太。絵を描くのを止める子供A。

子供A 「今日も公園行こうぜ！」

子供B 「待ってましたあ！」

吉雄 「じゃあ、行くか」

立ち上がる吉雄達。少し遅れて立ち上がる陽太。

子供A 「お前はどうせ、来れないだろ？」

陽太 「……僕も行く！」

吉雄 「勝手にしろ」

○どぶ川

どぶ川を次々跳び越える。吉雄と子供A、子供B。

どぶ川の縁で口を結ぶ陽太。勢いをつけて跳ぼうとしてどぶ川に落

ちる陽太。

子供 A 「あははははははは」

子供 B 「超だせえ！」

どぶ川の中で泣きそうな顔で尻餅をつく陽太。

子供 A 「もう行こうぜ！ こんな奴だめだよ！」

子供 B 「同感！」

どぶ川を這い上がる陽太。またどぶ川を跳ぼうとする陽太。

子供 A 「またかよ！ しつこいな！」

勢いをつけて跳ぼうとするがどぶ川に落ちる陽太。

子供 A 「あはははは」

子供 B 「運動音痴！」

泣きながらどぶ川を這い上がる陽太。

またどぶ川を跳ぼうとする陽太。

子供 A 「またやるつもりか！」

子供 B 「根性はあるな！」

勢いをつけて跳ぼうとするがどぶ川に落ちる陽太。

子供 A 「ねえ、かわいそうだから、公園、連れてつてあげようよ！」

子供 B 「同感、遠回りすればこれるし」

吉雄 「ダメだ」

子供 A 「えーなんでー！」

泣きながらどぶ川を這い上がる陽太。

またどぶ川を跳ぼうとする陽太。

子供 A 「がんばれ！」

子供 B 「行け行け！」

勢いをつけて跳ぼうとするがどぶ川に落ちる陽太。

子供 A 「またダメだあ」

子供 B 「いいじゃん！ 公園連れてこうよ」

吉雄 「ダメだ！」

どぶ川を這い上がる陽太。どぶ川から少し離れ助走を思いつき踏み切りして跳び成功する陽太。

子供 A 「おおお！」
子供 B 「跳んだ！」

ビショビショのドロドロの格好でガッツポ
ーズをする陽太。

顔をしかめる子供 A と子供 B 。

子供 A 「うわーばっちい」

子供 B 「ぎったねえ……」

立ち去ろうとする吉雄達。立ちすく
む陽太。振り返る吉雄。

吉雄 「何してるんだよ、早く来いよ」

駆け寄る陽太。

一団となって駆け出す吉雄、子供
A、子供 B、陽太。

吉雄 「お前、高鬼って知ってるか？」

陽太 「知らない」

吉雄 「じゃあ、教えてやるよ」

陽太 「うん」

○エンドロール